



令和7年4月21日（月）に十和田市立法奥小学校、5月2日（金）に十和田市立沢田小学校で校外学習の一環で「カブトムシの森たんけん」が行われました。この学習では、地域の森にいるカブトムシの幼虫を採取し、その飼育方法を図鑑で調べたり、地域の方へインタビューを通して知ることで森の多面的機能について学びながら、地域で生きる生物を大切にしていこうとする心を育むことを目的としています。

カブトムシの森は地域の協力者所有の山林でカブトムシの繁殖に適した環境となるよう維持管理してきました。児童たちは地元の奥瀬堰土地改良区職員から森の役割、カブトムシの幼虫に触れる時の注意点などの説明を受け、採取を開始しました。児童たちが軍手をはめた手で幼虫が傷つかないように優しく土を少し掘ると、丸々と太った大きな幼虫がたくさん見つかりました。



【奥瀬堰土地改良区職員から説明を受ける児童たち】



【土を掘って幼虫を採取】



【集合写真】

カブトムシの幼虫は順調に育てば7月の下旬には蛹から羽化し、地上に姿を現すとのことでした。子供たちは今からカブトムシの成長した姿を楽しみにしながら、改めて地元の方にお礼の言葉を返していました。

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>